



イベントの地元風景

(特非)大阪自然史センター

三陸海岸の豊かな自然を 子どもたちに伝える —未来の環境教育を担う人材育成事業

一般助成

3年目

実践

ワークショップ
参加者数(3年間) **6,145人**

地域の自然史文化資源を
まとめたワークショップ
ミニレター(3年間) **9種4,500部**

活動の全体目標に
対する達成度 **100%**

課題

回復の途上にある東北の自然系博物館・教育施設での環境教育活動の再開に向け、学生や現地支援者のネットワークを構築し、東北内部での人材を育成、継続的な展開を図ること。

目標

東日本大震災により被害を受けた地域で、地域の自然史を楽しく学ぶ活動を実施し、自然を学ぶ子どもたちの育成を図るとともに、被災博物館の活動の復興を促進する。

活動内容

- 博物館及び自然系施設に向けて
 - 【普及】地域の自然、文化をテーマにしたプログラムの開発と実施
 - 【調査】地域の自然を把握し記録する生物調査と標本作製
 - 【研修】標本作製法やワークショップの構成法など博物館系の知識・技術講座の実施
- 支援者(学生・地域住民)に向けて
 - 【普及】※博物館及び施設向きと同じ
 - 【インターン】東北の学生に、博物館を通じた教育普及活動の体験
 - 【研修】※博物館及び施設向きと同じ



地元スタッフと共に

達成できなかったこと

蓄積された博物館の普及教育の経験やノウハウの冊子化。東北での経験は蓄積されたが、全国の博物館と比較するには素材不足のため、冊子化に向けた活動の継続を続ける予定。

今後の展望

被災園館の再開まで、博物館と研究者、支援者たちの継続した関係の強化に向けサポートを続ける。

成果と工夫したポイント



成果

- ・プログラム作成数122。現地施設の自主企画の割合が、初年度は0%だったが、最終年は約60%に。
- ・一部施設で、本事業をきっかけに普及教育事業の予算化。また本事業で誕生したイベントが年間の定例行事に。

工夫

施設の経済的、人為的状况を把握し活動場所を選定。イベント後は継続に向けた外部予算確保をサポート。